

(施策評価表57)

【施策番号Ⅳ-12-①-1】

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦 略	【戦略12】悠久の宝の継承 ～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～	主な施策	◆歴史・文化を磨き上げる ～地域にある歴史と文化の磨き上げと情報発信～
			①くまもとの歴史・文化の磨き上げ、継承		

1 取組内容	2 主な事業	担当課	H25予算(千円) H24決算(千円)	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
<p>明治以降の熊本文学を展示する熊本近代文学館において、加藤・細川400年の歴史と文化等についても紹介するなど、「熊本歴史・文学館(仮称)」として拡充します。また、引き続き、県立美術館において、細川家ゆかりの公益財団法人永青文庫の優れた美術工芸品等の展示を通して、熊本の歴史や文化を県内外に情報発信します。</p>	熊本歴史・文学館推進事業	社会教育課	13,765	<p>・熊本近代文学館における歴史・文化の発信機能の拡充等に関して有識者の意見を聞いて検討した。</p> <p>・緊急雇用創出基金事業を活用し、熊本県立図書館が所蔵している未整理古文書の整理が進んだ(約37%)。</p> <p>・永青文庫が所有する美術品等の調査・修復を進め、展示内容の充実を図った結果、常設展示入場者が約4.3万人に達し(目標の3万人をクリア)、熊本の歴史・文化の情報発信に貢献した。</p>	<p>・熊本近代文学館に歴史関係の情報発信の機能を拡充するために基本計画を策定するとともに、新たな展示会や講座等を開催する。</p> <p>・今後の歴史関係の展示や関連事業の展開に向けて、引き続き未整理古文書の整理に取り組むとともに、古文書等や近代文学資料群の調査、研究、解説、活用を進める。</p> <p>・細川コレクションについて、引き続き、県立美術館において常設展示を行うとともに、永青文庫が所有する美術品等の調査・修復を進め、展示内容の充実を図る。</p>	<p>・熊本近代文学館の情報発信機能の拡充に向けた基本計画の策定が必要である。</p> <p>・細川コレクションについて、展示可能な美術品等に係る所要の調整を行う必要がある。</p>	<p>・熊本近代文学館の施設整備、各種展示会等の事業体系の確立及び専門職員の人材育成等に取り組む。</p> <p>・長期的な魅力ある展示計画を整え、県立美術館の細川コレクション常設展示関係の入場者目標を年間4万人以上とする。</p>
	貴重資料調査・研究・活用等推進事業	社会教育課	5,478				
	細川コレクション永青文庫推進事業	文化課	52,979				
			69,645				
<p>熊本駅から、細川家ゆかりの北岡自然公園、古い町屋などが残る新町・古町、熊本城へと続く道が、米国・ボストンのフリーダムトレイルをモデルに歴史と観光が楽しめる街並みとなるよう、熊本市と連携して取り組みます。</p>	※予算事業無し	地域振興課	-	<p>・H23年度に整備が完了した熊本駅から北岡自然公園までの約1,860m区間の散策ルートを、「くまもとさるく」(熊本国際観光コンベンション協会)のH24年度下半期号(H24年10月～H25年3月)に掲載し、周知が進んだ。</p>	<p>・完成している熊本駅から北岡自然公園へのルートから分岐し、新町・古町を経由して熊本城に至るまでのルートを整備するため、熊本市等と協議を進める。</p>	<p>・熊本市の政令市移行に伴い、熊本駅や熊本城周辺において国道3号を除くすべての道路は熊本市の管理となり、道標とするカラー舗装や道路面上の案内サイン等は、工事施行から維持管理まで道路管理者である熊本市が事業主体となるため、市の協力を得て進めていく必要がある。</p> <p>・JR鹿児島本線等連立立体交差事業に伴い確認された御成道跡に並行する歩道を散策ルートとして整備するため、熊本市等の関係部署の理解を得る必要がある。</p>	<p>・H27年度までに熊本駅から北岡自然公園へのルートから分岐し、新町・古町を経由して熊本城に至るまでのルートの整備を完了させる。</p>
<p>鞠智城の国営公園化の実現に向けて引き続き取り組みます。</p>	鞠智城国営公園化PR事業(緊急雇用)	都市計画課	16,000	<p>・鞠智城に関する各種PR活動を実施した結果、鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度が上昇し、温故創生館の入館者数がH23年度の108,333人から117,291人に増加した。</p> <p>・若手研究者を対象に鞠智城跡関連の研究論文を全国へ広く募集し、19人の応募から5人を選考。H25年3月に報告会を開催し、併せて論文集を発売。これにより広く鞠智城に対する関心が高まった。</p> <p>・鞠智城跡に関し、さらに学術的に深化した研究を促進するために専門家(5名)による研究を行い、新たな知見を得ることができた。</p>	<p>・鞠智城に関する各種PR活動を引き続き実施し、温故創生館入館者数を前年比約1.3%増加(年間入館者数119,000人)させ、鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度の向上に努める。</p> <p>・核となる学識者の指導助言のもと研究の深化を図るとともに、研究論文募集、学術的価値の発信等を多彩に展開していく。</p> <p>・さらに、東京(7月)、大阪(9月)で鞠智城シンポジウムを開催し、歴史的文化的価値を国民各層に広める。</p>	<p>・大規模歴史公園整備の基本計画(施設配置計画等の将来像)の策定を進めることとしているが、国営公園化の前提となる特別史跡指定に向けて更に知名度や歴史的価値の認知度を向上させる必要がある。</p> <p>・鞠智城の調査概要や保存整備事業の成果をまとめた「整備報告書」を刊行したが、今後、学界等における認知度の向上と研究の活性化が課題。また、関東圏を中心とした広報活動を充実させる必要がある。</p>	<p>・鞠智城が国営公園として閣議決定され、国により大規模歴史公園の事業に着手できるように、紹介本の作成、九州歴史資料館での展示、研究助成の実施、史跡鞠智城保存管理計画の策定、シンポジウムの継続的な開催などにより、更に知名度や歴史的価値の認知度を向上させる。</p> <p>・国営公園としての集客力があることを証明できるように資料の作成を行う。</p>
	鞠智城国営公園化PR事業	都市計画課	20,000				
	鞠智城公園推進事業	都市計画課	31,400				
	鞠智城整備事業 うち鞠智城特別史跡指定推進事業	文化課	11,697				
			10,731				
<p>相良700年の歴史・文化、菊池一族、天草キリシタン文化など県内各地域の歴史・文化・史跡を活用した地域づくりや情報発信に取り組めます。</p>	「加藤・細川ヘリテージ(遺産)」プロジェクト事業	文化企画課	14,821	<p>・県内に残る歴史的、伝統的町並みを募集し、「くまもと歴町50選」として60地区を選定。</p> <p>・加藤・細川を中心としたテレビ公開講座や検定を実施し、1,512人の受験があった。</p> <p>・家族向けキャンペーン「夏だモン! くまもとあそびんゴ!!夏たびキャンペーン(H24年7月～8月)」等の中で県内の歴史・文化史跡等のPRが進んだ。</p> <p>・球磨地域10市町村の企画・観光、文化財部局と協議会を組織し、古社寺等文化遺産の広域的な保存・活用プランの策定を進めた。</p> <p>・地域づくり夢チャレンジ推進事業の「交流促進の取組み」により、歴史・文化等の地域資源を活かした取組みの支援が進んだ。</p>	<p>・「くまもと歴町50選」を発展させ、町並みの保全、再生に向けた取組みを加速化させる。</p> <p>・女性や小中学生等を対象とした新たな切り口での体験型イベントの開催する。</p> <p>・観光キャンペーン等を通じて、県内の歴史・文化史跡等のPRを継続する。</p> <p>・球磨地域の古社寺等文化遺産の保存・活用プランを完成させ、その実現に向けた取組みを進める。</p> <p>・地域づくり夢チャレンジ推進事業の「交流促進の取組み」により、歴史・文化等の地域資源を活かした取組みの支援を継続する。</p>	<p>・民間や関係自治体との連携を進める必要がある。</p> <p>・集客力を高めるため、相良文化等を観光資源として更に磨き上げていく必要がある。</p> <p>・毀損が進む球磨地域の古社寺等文化遺産についての保存・活用プランが未策定である。</p> <p>・交流促進に資する関連分野への情報提供を促す働きかけが必要である。</p>	<p>・「加藤・細川ヘリテージ(遺産)」プロジェクト各事業を展開する。</p> <p>・観光キャンペーン等を通じて、県内の歴史・文化史跡等のPRを進める。</p> <p>・球磨地域の古社寺等文化遺産についての有効な保存・活用プランを策定するとともに、国有形文化財登録の推進に向けた機運を醸成する。</p> <p>・関連分野との情報共有や地域住民の活動の掘り起こし、交流人口の拡大を図る。</p>
	くまもと観光ブランド形成事業	観光課	1,500				
	「選ばれる観光地くまもと」観光キャンペーン展開事業	観光課	1,500				
	※予算事業無し		0				
	文化財広域連携推進事業	文化課	810				
	地域づくり夢チャレンジ推進事業	地域振興課	300,000				
		企画課	128,823				
				<p>●熊本近代文学館における歴史・文化の発信機能の拡充等に関して有識者の意見を聞いて検討。</p> <p>●鞠智城に関する各種PR活動を実施し、鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度が上昇し、温故創生館の入館者数がH23年度の108,333人から117,291人に増加。</p> <p>●県内に残る歴史的、伝統的町並みを募集し、「くまもと歴町50選」として60地区を選定。</p>	<p>●熊本近代文学館に歴史関係の情報発信の機能を拡充するために基本計画を策定するとともに、新たな展示会や講座等を開催。</p> <p>●鞠智城に関する各種PR活動を関東圏を含め引き続き実施する。また、温故創生館入館者数を前年比約1.3%増加(年間入館者数119,000人)させ、鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度の向上を推進。</p> <p>●「くまもと歴町50選」を発展させ、町並みの保全、再生に向けた取組みを加速化。</p>	<p>●熊本近代文学館の情報発信機能の拡充に向けた基本計画の策定。</p> <p>●鞠智城に関する学界等での認知度向上と研究の活性化。また、関東圏を中心とした広報活動の充実。</p> <p>●町並みの保全等に向けた民間や関係自治体との連携推進。</p>	<p>●熊本近代文学館の施設整備、各種展示会等の事業体系の確立及び専門職員の人材育成等を推進。</p> <p>●鞠智城に関する研究助成の実施やシンポジウムの継続的な開催。</p> <p>●「加藤・細川ヘリテージ(遺産)」プロジェクト各事業を展開。</p>